

研究実施のお知らせ

2023 年 8 月 7 日 ver.1.1

研究課題名

腹部外傷に対する内視鏡的逆行性胆管膵管造影関連手技に関する後ろ向き研究

研究の対象となる方

2012 年 4 月から 2022 年 9 月の間に島根大学医学部附属病院に腹部外傷で入院し内視鏡的逆行性胆管膵管造影を用いた治療を行った方

研究の目的・意義

腹部外傷などによる胆管や膵管の損傷は治療に時間がかかりやすく、開腹手術が必要になることもあります。近年、このような腹部外傷に伴う胆管損傷、膵管叢尿に対し内視鏡治療が有効であった症例が報告されています。当院でもこれまで各症例に応じて内視鏡による治療を行ってきましたが、治療の詳細については担当の判断によって異なっており最も適切な方法は明らかではありません。さらに、内視鏡治療そのものの合併症の頻度についても明らかになっておりません。以上の背景から当院におけるこれまでの経験を検証することを目的としこの研究を計画することとした。

この研究は、当院で行われた胆管もしくは膵管損傷に対する内視鏡治療の症例を後ろ向きに解析する。入院期間と合併症について患者因子や手技的因子が及ぼす影響を明らかにすることです。これらを明らかにすることで今後胆管及び膵管損傷に対する適切な内視鏡治療の実践が期待されます。

研究の方法

利用する診療情報の項目： 以下の 12 項目を取得します。

- 1) 年齢、性別
- 2) 糖尿病の有無
- 3) 内服歴（抗血栓薬）
- 4) 胆管または膵管の損傷部位
- 5) 胆管損傷または膵管損傷を受傷した日
- 6) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影を行った日
- 7) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影を行った回数
- 8) 行った手技
- 9) 追加治療の有無

- 10) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影および関連する治療手技に起因した合併症の有無
- 11) ドレナージ終了日
- 12) 自宅退院した日

研究の期間

2022年11月21日～2024年9月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2023年5月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2189